



喜多流自主公演

平成二十七年十一月

花 高林白牛口二
女 友枝 雄人
郎 花 筐

平成27年11月22日(日)

12:00開演(11:00開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階栈敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円(25歳以下、要学生証提示)

・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。
お気軽にご参加ください。

・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催 公益財団法人 十四世六平太記念財団 協力 喜多流職分会

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。
ご予約の際ご案内いたします。

※平成27年度公演の前半5回分は発売中です。
後半5回分は平成27年9月1日午前10:00より発売します。
※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

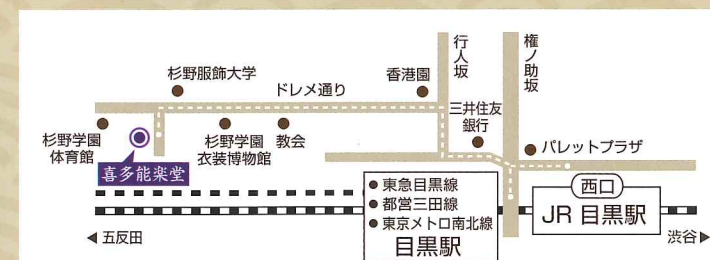
- ・ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な優待券です。
- ・お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ・ご観能の際は別途チケットをご予約ください。追加料金はかかりません。ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。年間優待券のみでの観能はできません。ご入場の際は、年間優待券とチケットをご提示いただきます。
- ・ご利用は、平成27年度喜多流自主公演のみ有効です。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階栈敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。
目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
※ 当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

十一月自主公演番組

能

シテ連・侍女 高林昌司

子方・継体天皇 内田利成

後シテ・前同人 高林白牛口二
前シテ・照日前

花 筐

ワキ・供奉官人 森 常好

ワキ連・天皇の御使 森常太郎

ワキ連・輿舁 則久英志

ワキ連・輿舁 野口能弘

大鼓 柿原崇志
小鼓 大倉源次郎

笛 中谷 明

後見 香川靖嗣
塩津哲生

地謡

佐藤寛泰
大島輝久
内田成信
塩津圭介

高林呻二
出雲康雅
粟谷能夫
長島 茂

狂言

萩大名

シテ・大名 野村万蔵

アド・太郎冠者 河野佑紀
小アド・茶屋 能村晶人

休憩(十五分)

仕舞

経 政

谷 大作

地謡

金子敬一郎
金子匡一
長田 驍
松井 彬

玉 葛

佐藤章雄

地謡

佐藤 陽
長島 茂
粟谷 幸雄
粟谷 充雄

休憩(十五分)

能

シテ連・頼風の妻の霊 佐々木多門

後シテ・小野頼風の霊 友枝雄人
前シテ・老翁

女郎花

ワキ・旅僧 館田善博

アイ・八幡山下の者 山下浩一郎

大鼓 柿原光博
小鼓 観世新九郎

大鼓 桜井 均
笛 一噌隆之

後見

友枝昭世
内田安信

地謡

友枝真也
粟谷充雄
金子敬一郎
粟谷浩之

狩野了一
粟谷明生
大村 定
中村邦生

— 終了予定 午後四時頃 —

花 筐 (はながたみ)

越前の味真野(あじまの)に住む照日前は男大迹皇子に寵愛されていた。ある日、都より勅使が来て、皇子が即位されることになり、都に向かった。その時照日前は里帰りしていたので皇子は手紙と形見の花筐を届けさせた。それを受け取った照日前は、即位された祝意と離ればなれになった悲しみを抱いて里に帰っていった。(中入)

即位をして大和(奈良)の玉穗の宮を皇居と定めた継体天皇は、警護の官人たちに守られて紅葉狩りに出掛ける。その道筋に、侍女に花籠を持たせた狂女が現れる。見苦しいと言って官人が花籠を打ち落とすと狂女は、これは継体天皇の形見だと敬い、越前での皇子との想いを物語って懐かしがる。狂女は乞われて中国前漢の武帝が李夫人を亡くした故事を語りながら継体天皇への想いを舞ってみせる。その姿を見た継体天皇は花籠を証に照日前と認め、正気を取り戻した照日前を伴って皇居に帰る。典型的な物狂能の構成をとるが、継体天皇と女御の若き日の恋という、古代的で牧歌的な情調が背景に感じられる。(約一時間三十分)

萩大名(はぎだいみょう)

長らく在京した田舎大名が帰国の前に、太郎冠者の案内で、ある庭園に萩の花見に出かける。太郎冠者は和歌を所望された場合を予想して、聞き覚えの一首「七重八九重とこそ思ひしに十重咲き出づる萩の花かな」を大名に教えておこうとするが、大名は覚えられない。そこで、太郎冠者は一句一句物になぞらえておき、その場でひそかに合図を送ることを決めておく。庭園に着いた大名は、庭の景観をほめるにも失言を重ね、肝心の歌もしどろもどろで、あきれた太郎冠者は途中で退散してしまう。(約三十分)

女郎花(おみなめし)

九州松浦湯の僧が石清水八幡宮に参詣しようと男山の麓まで来ると、そこに女郎花が咲き乱れているので一枝折ろうとする。すると花守を名乗る老翁が現れてお互いに古歌を引いて争うが、旅僧が古歌をよく知っているので、女郎花を一本手折ることを許す。老翁は旅僧を女郎花に由来する男塚、女塚に案内し、自分は小野頼風の霊だとのめかして消える。(中入)

旅僧は八幡山下の者に小野頼風夫婦の話をきき追悼の読経をする。すると、頼風と頼風の妻の霊が現れ、頼風についての悪い噂を聞いてそれを苦に妻が放生川に身を投げたことを話す。その亡骸を塚に埋めた後に女郎花が一本生えたが、頼風が近づくと靡き退くので、頼風もまた自分の罪科と嘆き悲しみ川に身を投げ、その後男塚に埋められたことを語る。今は邪淫の悪鬼に責められていると苦しい様子をを見せて消え去る。(約一時間三十分)

平成二十七年 十二月 自主公演番組予告

平成二十七年 十二月二十日(日) 正午始
十四世喜多六平太記念能楽堂

橋 弁 慶 大島 輝久
葛 城 高林 呻二
鶴 狩野 了一